

緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 温暖化防止京都会議の問題点 P 2
大同のマツ枯れ調査報告 P 4
●チコロナイと松浦武四郎と私 P 6



車にひかせて、アワやキビを脱穀する。収穫期によくみられる風景。靈丘県にて (撮影：橋本紘二)

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『黄土高原に緑を!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る
- ☆KDD グリーンアースダイヤルに登録する etc.

あなたのご参加を待っています!

1997・11

58

温暖化防止京都会議の問題点

河宮 信郎 (中京大学教養部教授)

●足をひっぱるアメリカと日本

温暖化防止策を決めるための京都会議が迫ってきた(本年12月1日～10日)。しかし準備会での議論では厳しい対立が続いている。1990年の排出量を1次基準とし、そこから削減量を上積みしようというのだが、その議論がまとまらない。紛糾の原因は第1にアメリカと日本にある。いわゆる「先進国」(何が進んでいるのか疑わしいが、本稿では「化石燃料消費において先進的」という意味であえてこの語を使う)で90年～95年の間のCO₂排出量が最も多いのがアメリカで、なんと56%増、つぎが日本で20%増、両者合わせて先進国の増加分の8割を占めるという(『朝日新聞』97・10・25)。排出増加の主犯であるアメリカが、欧州連合(EU)の15%削減(90年基準)に真っ向から反対し、議長国の日本がそれと口裏を合わせている。しかも両国は本心では削減反対のくせに、EU案を攻撃する理由として、<同案がスペイン・ポルトガルの増加を認めているからいけない>などとあげつらっている(両国はドイツの超過削減分・25%の一部を融通してもらう)。反対のための反対であることはみえすいているのに、日本が反対理由までアメリカの受け売りをしているのがいかにもなさげない。

●日本の長期構想のあやしさ

しかしもっと深刻な問題がある。日本政府は単に無定見からアメリカに追随している(外務省はいざ知らず)のではなく、それなりに地球環境政策を立てそのもとに行動しているのだが、その「政策」が地球環境の保全にほとんど役立たないのである。

これは「地球再生構想」という尊大な標題をもつもので、日本政府が92年のリオ会議以来一貫して掲げている「地球温暖化防止対策」である。その概要は、

1. 「地球再生」のシナリオ作成。<環

境・経済成長・エネルギー安定供給～三位一体の確保>と<長期的なCO₂排出抑制の実施計画の作成>を骨子とする。

2. 国際的な温暖化対策事業の推進(2020年まで)。主要な項目は、非化石クリーンエネルギーの導入(原子力を含む)、太陽光発電のコストダウンと普及、燃料電池のシステム開発、世界緑化の推進である。
3. 革新的技術開発の推進(2100年まで)。エネルギー関連における<水素エネルギー、核融合技術、バイオ油化・ガス化プロセス>、CO₂対策として<回収と海底・地中への貯留技術>を開発すること、発展途上国への技術移転を推進することなど。

このほか、<国際的な取り組み体制の整備>を掲げているが、そういう題目を掲げることよりも、たとえば今回の京都会議に積極的に取り組むことでこの主張を実践するのであれば意味がない。

●エネルギー消費削減への志向がない

この提案の致命的な欠点は<化石燃料消費を積極的に削減していく>という姿勢が欠けていることである。基本目的が、エネルギーの削減ではなく「安定供給」であるから、もし「開発」される新エネルギーで化石燃料を「代替」できたとき、その分だけ二酸化炭素排出を抑制する(代替が進まなければなにもしない)というに等しい理屈になっている。新技術開発の成功(きわめて不確実)に完全に依存し、整合的な環境税など制度的な整備で一次エネルギー消費を削減する、という志向をまったく欠いているのである。

しかも、その「代替エネルギー」のほとんどがまず化石燃料代替の役割を果たせないものばかりである。まず3の項でみると、「水素エネルギー」という資源はない(正確にいうと一次エネルギーではない)。それは「電気エ

ネルギー」という資源がないのと同じである。電気は化石燃料や水力や核エネルギーなど1次エネルギーを変換して得る「流通手段」にすぎない。水素も自然界では水(水素の燃えかす)としてしか存在せず、電気分解してはじめて水素を得る。電気が2次エネルギーとすると水素は3次エネルギーでしかない(研究開発でこの本質が変わることはありえない)。

バイオ油化・ガス化にいたっては、動植物性油脂を燃料用に使うということになり、温暖化の進行で耕作適地が減り食料供給さえ危うくなる状況に逆行しており、まともな開発課題にはなるとは考えられない。残る核融合には2つの致命的な欠点がある。まず、高温プラズマを閉じ込める手段がないため、反応実現が容易でない(研究が進みプラズマ温度が上がるほど閉じ込めの困難さが増す)。つぎにもし首尾よく反応が実現された場合、欲しいものはエネルギーであるのに生成するものは高速中性子流である、という困難にぶつかる。高速中性子を炉壁に「ぶつけて」やれば熱になる、とはいえ、ぶつけられた炉壁が変質したり壊れたりする(耐用限は連続燃焼で数時間までと考えられる)。

CO₂の貯留もやってはいけないうことである。現在200億トン以上排出されるCO₂を分離回収し、圧縮して深海底や地中深くに貯留するのに莫大なエネルギーを要する。そのために余分のエネルギー消費が必要となり、それに伴う余分のCO₂排出が起こる。まさに悪循環の典型である(もし排出ガス処理に充て得る非化石エネルギーがあるのなら、その分だけ化石燃料を代替しなければならない)。

●結果として世界を欺くことに

こうして「長期目標」が空虚なものだということになると、中期目標もあやしくなる。原子力、太陽光発電、燃料電池(ただしこれは化石燃料をより効率的に燃やす方法である)はせいぜい補助的1次エネルギーとしてしか使えないからである。もともと、化石燃料時代と「長期目標」達成の間のつなぎであったのだが、継投のバトンを渡



す相手がなくなってしまうのである。

日本政府が世界に向けて提案する地球環境対策がこのようなものである。これを受けた他の国々はどうしているのか。まずこの提案が再三繰り返されている（G7にも提出された）のに、日本政府は目立った反論や批判を受けていないらしい。少なくとも「技術大国・日本」がまさかであらぬ「長期開発計画」を引っ提げて世界を欺こうとしているとは考えていないであろう。しかし結果としてそうなったら、日本の責任は過去の大战における「戦争責任」よりはるかに重いものになる。しかしこの提案はあたかもアリバイか免罪符のような意味合いで出されているようにも思われる。＜日本は懸命に努力する＞というポーズである。少なくとも、深刻な責任問題を引き起こす可能性を慮っているとは思えない。＜結果責任をとれるかどうか＞の問題なのに、＜やる姿勢をみせればいいのだ＞と勘ちがいがしているのではない。

●欺瞞が欺瞞を呼んでついには破綻

じつをいうと未来に向けてのこういう無責任は狭い意味での「国益」にさえ反する。というのは、これらの欺瞞的な課題が重点的な研究開発のテーマとなり、そこに巨額の予算がつくようになると（現についている）大勢の研究者を吸収することになる。しかしまともな成果が出ることは決してない。しかし多年にわたって巨大な予算を食いつぶしたら、担当者は「失敗した」ともいえなくなる。だから絶えず「成果」を捏造しながら、予算確保に狂奔するほかない。こうなると頼みの綱は政治的延命策しかない（これにも失敗したのが悪名高い動燃である）。さらに悪いことに、このような国策研究に動員された研究者（とくに若手）は研究能力を麻痺させていくであろう（3兆円を超える税金を食いつぶした動燃にまともな技術者がいなくなっていたことを想起せよ）。こうなると通産省・科学技術庁流の「科学技術立国」型の成長路線さえ立ち行かなくなる。

環境NGOの側からみると、こういう「政府の失敗」は自業自得だといいたくなるが、そういつてもいられない。

深刻な悪影響が「国民」規模というより人類と地球環境に及ぶからである。つまり、NGOは直接地球環境保全の活動をするだけでなく、政府のこういう無責任な政策を転換させるという課題まで抱えこんでしまった。限られた活動力のなかでこんな厄介な問題を押しつけられた...と気づいたひともまだ少ないだろうが。

●環境破壊の停止で経済の健全化

成長至上主義から出された「政策」が成長そのものを挫折させる内容もっているというパラドクスは、このような政策を改めさせる契機になりうる（簡単ではないが）。実際80年代の中成長期（成長率約5%）においてさえ、成長額（約20兆円）よりも公的債務（政府・地方・特殊法人の債務）の増加額（約30兆円）のほうが大きかった。自然破壊的な大規模開発、長良川河口堰や諫早干拓、徳山ダム、各地の巨大林道などは国と地方の債務を「高度成長」させてきたのであり、狂乱のリゾート開発は民間の債務を「高度成長」させただけであった（無謀な開発を自己資金でするひとはいない）。7月以来東アジアを揺るがしている通貨・金融の危機の原因も、環境破壊的な大規模開発の結果が結局借金の「高度成長」だった（製造業の移転は副次的な要因でしかなかった）ことを意味する。た

だしこの地域の無謀な開発計画は借金ができなくなれば自動的にストップする。日本では、民間部門は止まるが公的部門は簡単には止まらない。しかし、銀行預金でなく郵貯であっても、乱開発で浪費した分は焦げつくのであるから、停止は必然である。日本で乱開発型公共事業が止まれば、CO₂を始めとする温室効果ガスの排出削減には大変な貢献となるし、アジア諸国への波及効果も大きいであろう（もちろんインチキ研究に出す資金と資材も節約できる）。これは地球環境だけでなく、経済・財政の再生・健全化の役にも立つのである。

【追記】温暖化防止のための京都会議に際して、国内の対策に関する最終報告書が、地球温暖化問題関係審議会合同会議から11月11日に橋本首相あてに提出された。さすがにここでは、これまでの日本政府の地球環境政策が成果を上げていないと認めている。しかしこの提案にもまた決定的なポイントである環境税・CO₂排出税などの構想はなぜか盛られていない。（見出しは編集部による。）

報告会・自然と親しむ会 たくさんの方が参加

菌根菌をつかった育苗の開始や、植樹後約20年のマツの枯死の発生など、新しいことがあった97年。黄土高原緑化状況報告会が、9月30日阿倍野市民学習センターで開かれ、会員を中心に55人が参加しました。

小川真さんのお話は、はじめての方にはちょっとむずかしかったかもしれませんが、以前の菌根菌の講演をふまえて、黄土高原での菌根菌をつかった育苗に期待される成果についてでした。

立花代表のお話では、気象条件など基礎データを把握し、条件に応じて植樹することの必要性を強く感じました。

また、このお二人と岩瀬剛三さんに

ご案内をいただいて、大阪
市立大学理学部付属植物園
で10月10日、自然と親しむ

会「森の中のキノコのはたらき」を開催、50数人が参加しました。雨が少なかったためキノコがないのではと心配でしたが、あちこちから「これ、何ていうキノコですか」と質問があり、思い思いに秋の植物園を楽しみました。



ひとまずホッと...

大同のマツ枯れ調査報告

去年の夏くらい、遇駕山をはじめ大同県のいくつかの造林地で、植栽後12年ほどたった樟子松が枯れはじめ、あわてさせられました。私たちの協力地に隣接した、中国の国家プロジェクト「三北防護林＝緑の長城計画」のモデル地域であり、このまま被害が広がれば、たいへんなことになります。

いつも現地を訪れる専門家のほかに、病虫害の専門家の現地調査を依頼して回りました。

8月に東大農学部の鈴木和夫教授一行、そして9月には国際緑化推進センターの助成をうけて前森林総合研究所所長の小林一三さんに、現地で、大同

市林業局の技術者といっしょに調査してもらい、JICAから寧夏回族自治区銀川に派遣されている専門家チームには標本を送って鑑定してもらいました。

幸いなことに悪質な病虫害は発見されず、95年の異常気象によるストレスが原因である可能性が強いとのこと。このまま拡大する恐れは少なく、良好な苗を選ぶ、他樹種との混植をすすめる、管理を強化するといったことで、成林の可能性は十分あるとの結果がでました。新しい調査地・九梁窪では70年代末に植えられた同じ松が4.5mほどにりっばに育っているのを見ることができました。

また調査の過程をつうじて、中国では、中国林業部、山西省林業庁、大同市林業局の今後のバックアップを約束してもらい、日本の諸組織との関係が深まりました。

このかんの課題であった緑色地球ネットワーク大同事務所の強化についても、大同市林業局から現場に強いベテラン幹部を顧問に推薦してもらい、来春の予定地の再調査、混植と管理強化を織りこんだ計画の再検討がすすんでいます。

むずかしい自然環境のもとでの緑化ですから、問題が発生するのは避けられません。問題を恐れるのではなく、いっしょうけんめい努力することで、事態はいいほうにすすむことを確信できました。ひらたくいえば「転んでもただでは起きない」といったところでしょうか。油断はできませんが。(高見)

年末カンパにご協力を！

GENの活動を応援しようと、使用済みテレカ、グリーンアースダイヤル、小銭募金箱などを通じてたくさんのご協力をいただいています。テレビ朝日系「素敵な宇宙船地球号～黄色い大地に生きる」の放映以降、テレカ回収がずいぶん増えました。ご協力に感謝します。しかし、NTTの買い取り価格が当初より大きくなったこともあり(当初1枚10円が現在3円)、植樹活動

の資金には依然として苦労しています。

年末のご協力をお願いいたします。また、現在会員数は約550名ですが、新しく会員になっていただけの方があれば、この機会によるしく願います。同封の振替用紙をご利用ください。

最近ご協力いただいた方には重ねてのお願いではありませんが、会報発送作業の都合で一律に振替用紙を同封させていただきました。ご了解ください。

緑の募金交付決まる

このたび、緑の地球ネットワークが大同市でおこなっている緑化協力が国土緑化推進機構の緑の募金公募事業に決定し、220万円の交付金をうけることになりました。交付金は、大同市北部地域の緑化費用の一部としてつかわさせていただきます。

報告活動つづく

○10月3日、奈良薬師寺で開かれた国際ソロプチミスト奈良まほろばクラブの例会で、夢のなる木200年代表のかたと、それぞれの国際協力活動について報告し、あとで対談をおこないました。クラブからは緑化協力資金の贈呈をうけ、今後の支援を約束してもらい

ました。

○10月14日、福知山市で、郵政省国際ボランティア貯金推進協議会などの主催で、国際協力活動にかんする講演会が開かれ、高見事務局長が、中国黄土高原の緑化活動についてスライドをまじえて報告をおこないました。加入者の善意が、黄色い大地に緑となって広がっていることに、感心してもらえました。

○10月23日、同じく郵政省国際ボランティア貯金の寄付金配分団体の報告会が大阪市西区のYMCA 会館で開催され、ことしは大阪キリスト教青年会といっしょに報告をおこないました。他の団体の活動を私たちも知ることができ、収穫がありました。

1998 春の黄土高原ワーキングツアー

こしばかり、定員を上回る応募をいただく黄土高原ワーキングツアー。できるだけ受け入れたくていつも定員をオーバーしてしまい、大同のスタッフには苦労をかけていました。

そこで来春は定員を減らしてふたつツアーを派遣します。新しい試みも企画。詳しくは次号でお知らせしますが、予定は下記のとおりです。日程・費用は変更の可能性があります。

●日程：【第1班】1998年3月26日(木)～4月4日(土)

【第2班】4月16日(木)～23日(木)

●費用(両班共通)：一般=175,000円、学生=165,000円(国際航空運賃、中国国内での交通費/食費/宿泊費、ビザ取得手数料、GEN年会費含む)

※中国国際航空利用

※関西国際空港発着

※成田空港発着便利用の場合、費用が高くなる場合があります。

※北京もしくは大同で合流ご希望の方、ご相談に応じます。

●定員(各班)：20名

●締め切り：【第1班】2月26日【第2班】3月16日

※ただし両班とも定員に達し次第締め切ります。



世界の森林と日本の森林 (その12)

立花 吉茂 (花園大学教授・GEN代表)

●導入と馴化

われわれがおこなっている黄土高原の緑化にはアブラマツとモンゴルマツが用いられているが、昔、これらが黄土高原に繁茂していたという確証はない。もしこれらが不適であったとすれば、この緑化の仕事は失敗に帰する。そうならないためには、なんとか昔の植生を知るための努力をしなければならぬし、またより適当な樹種の導入が必要になる。また地域ごとに雨量などが不安定、不規則なため、これらの正確なデータの把握も必須である。この必須の3点はまだほとんど調べられていないまま、毎年植樹がおこなわれている。筆者はこの点に危惧を抱いている者の一人である。

ここでは3点のうちの導入と馴化の

問題にからむ過去の経験をご紹介して批判をおおぎたい。

●アクリマチゼーション (Acclimatization)

自然の分布地域とよく似た気候環境の別の地域に植物を移植すると、気候がぴったりの場合は90%以上が定着して繁茂する。あまりぴったりでない場合は90%以下、かなりよくない場合は数%しか定着できない。しかし、定着した株が親となって2代目の種子ができ、その苗が育つと、こんどは定着率が少し上がる。7~8代重ねると90%以上の株が定着するようになる。これは典型的な例であり、いつもこうなるとは限らないが、このような人為的分布領域の拡大は、その植物の多様性のなかから、そこに適した遺伝子を

もっていた個体が生き残ったことを意味する。多様性の大きさは種によって異なり、まえて予測することは不可能にちかい。

●暑さと乾燥の馴化

寒い地方から暖かい地方へ移された植物は、最初10~20年はよく成長するがやがて成長率は低下し、害虫や病気で枯死する株が出現する。これは、寒い地方は、暑い期間が短いから、それに馴れた植物は、暖かい地方の暑い長い夜の呼吸消耗によって、昼間の光合成でえた養分を使い果たしてしまい、マイナス成長になって衰弱し、病虫害が引き金となって枯れると考えられる。

適当な降水量のある地域から乾燥した地域へ移された種もまた同じような事が起こっていると考えられよう。

緑の中国 歴史篇 15

上田 信 (立教大学教授)

中国といえば詩歌の国というイメージがあります。しかし以前ここで取り上げた『詩経』が生まれた周の時代から、およそ二百年あまり、詩として伝えられているものはありません。詩歌が作られなかったのではないでしょう。外交と戦争に明け暮れた時代に、詩歌を書きとどめる気持ちのゆとりがなかったのだと思います。空白の時代を経た戦国の末、紀元前300年ごろ、長江の中流域を本拠とする楚の国で、新しい詩のスタイルが生まれます。これが『楚辞』です。

この『楚辞』には植物が数多く登場します。植物がどのように歌い込まれているかを見ると、自然と人間との関係のありようを窺い知ることができるはず。最初に、『楚辞』に収められた諸篇のなかでも特に奇妙な「山鬼」を取り上げてみましょう。

前回ここで「山鬼」が「九歌」としてまとめられた九篇の作品のなかの一

つと述べましたが、ちょっと訂正があります。九歌には全部で1篇の歌が収められています。

その作品名は、

東皇太一
雲中君
湘君
湘夫人
大司命
少司命
東君
河伯
山鬼
国殇
礼魂

です。なぜ「九歌」なのか。定説はないようですが、そのなかの「湘君」と「湘夫人」、「大司命」と「少司命」とがそれぞれセットとして一篇と数えられているのかも知れません。

なかなか本題に入れませんが、いよいよ次回に、「山鬼」を見ましょう。

緑色地球ネットワーク 実行委員大募集!

第1回の緑色地球ネットワークは95年秋、阪神大震災のあとで不安をかかえながら、みなさまの温かいお力添えで成功裡に終ることができました。そのときのメンバーは、帰国後、緑化協力の推進に大きな役割を果たしています。

そこで第2回の訪日団を、会員総会にあわせて来年6月に招くことにしました。東京訪問の可能性も検討しています。つきましては、前回GEN内外の多くの方のご協力をえたことから、今回は実行委員会をつくりたいと考えています。黄土高原ワーキングツアーに参加した方、こんなところを訪ねたらというアイデアのある方、黄土高原で緑化に走り回っている現地のスタッフに接してみたい方、ぜひご参加ください。GEN会員・非会員を問いません。GEN事務所までご連絡ください。

第1回実行委員会を、来年1月31日(土)午後15時〜17時に大阪で予定しています。詳しくは次号でお知らせします。

チコロナイと松浦武四郎と私

吉田 淳一（大阪府 51才）

私とチコロナイとの出会いは、2年くらい前、ORC2であった「萱野茂」講演会で目にしたパンフレットです。それまでからアイヌ民族について多く深く知りたいと、あちこちの会に参加してきました。テレビや新聞からの情報も集めたりビデオ記録したりしてきました。そのうち、二風谷に行くようになり、貝澤美和子さんにもいろいろ話を聞かせてもらいました。初対面の時も、親しくしてくださったのが忘れられません。さらに、「イランカラプテー」という言葉にこめられている意味を知って感動しました。そして、アイヌ語も学びたくなっていた矢先、パンフレットで「アイヌ語教室」のことを知り、同時にもたれていた「チコロナイ学習会」にも参加するようになったというわけです。「チコロナイ学習会」も、二風谷に似たやさしい雰囲気があり、会でもすぐしゃべることができるようになりました。

さて、私がアイヌ民族に関心を持つようになったのは、新谷行という人の「アイヌ民族抵抗史」という本を読んだのがきっかけです（学生時代に買ってはいたのですが、ほとんどつん読状態だった）。それまで約40年間、大和民族（私は、アイヌ民族のことを口にする場合、日本人という言い方は何かひっかかりを感じます。あらゆる制約がない時、アイヌの人たちがほんとうに日本人であることを希望されるかどうか疑問に思うからです。既成事実とは別として...）が、現在の北海道をなしくずし的に侵略しながらぶんどったものだと知りませんでした。学校でも教えてもらいませんでした。それどころか、小学校で使った地図帳で、現在のいわゆる日本列島以外に朝鮮半島や台湾・樺太などが赤くぬられているのを見て、「あー、日本はこんなに広がった時もあったんだなあ。この時はよかったなあ」と思っていたのです。知

らないということはおそろしいものです。「侵略する」「侵略される」ということがどんなことなのかまったくわかっていなかったのですから……。西部劇を見ては、インディアンは残酷だなぁと思っていたのですから…。

「アイヌ民族抵抗史」の中の「近世蝦夷人物史」（松浦武四郎 1818～1888）について書かれてある部分を読んで愕然としました。アイヌの人物のすばらしさをたたえつつ、同時に大和民族の残酷さが告発されてあったのです。以来、この松浦武四郎のその他の著書にも関心を持ちはじめ、この春と夏、武四郎がアイヌの人と共に歩き回った天塩川（著書—天塩日誌に拠る）沿いを自転車ですりすましてみました。あいにく春は高熱に、夏は大雨・台風に邪魔され、目的は半分しか達成できませんでした。また来年再挑戦しようと思っていますが、もっと短い距離で夕張川沿い（著書—夕張日誌）に変更するかもしれません。機会があれば、チコロナイで報告したいと考えています。今後ともよろしく願います。

COP3 (地球温暖化防止京都会議) に参加しよう!

COP3って騒いでるけど、私たちはどんなふうに参加できるの? という方、おいでですよ。会議そのものには無理でも、市民レベルでの関連イベントがあります。GENでは11月30日(日)11時～16時、京都市役所前の御池通りで開催される“市民環境フェスティバル”のNGOブースに参加します。コンサート、フリーマーケット、フーズコーナーなどをはじめ、全国各地を出発した「全国縦横自転車エコリ

レー」のゴールが予定されています。また、会議期間中の12月7日(日)午後にもイベントがあります。そのほか、詳しいお問い合わせは下記まで。
【気候フォーラム】 〒604 京都市中京区高倉通四条上ル高倉ビル305
 TEL. 075-254-1011 FAX. 075-254-1012
 E-mail kiko97@jca.ax.apc.org
<http://www.jca.ax.apc.org/~kiko97/>
【気候フォーラム東京事務所】
 TEL. 03-3263-9210 FAX. 03-3263-9463

そのほか、気候フォーラムでは、途上国からNGOのメンバー40人を京都会議に招待するために募金を募っています。温暖化によっていち早く大きな被害をうける人たちの声をCOP3に届けるためにご協力を!(11月末まで)

郵便振替 01090-7-36485
 加入者名 気候フォーラム
ホームページ運用開始予定
 11月下旬から、気候変動枠組み条約事務局などが京都会議のHPを開設。
<http://www.unfccc.or.jp>

ビデオ『森よ、よみがえれ!』普及にご協力を!

- ビデオ『森よ、よみがえれ!』(VHS・カラー・28分)
- 価格: 5,000円 (GEN 会員価格4,000円・送料270円)
- 環境事業団地球環境基金制作協力/文部省選定/環境庁推薦/林野庁推薦/中国駐日本国大使館推薦/大阪府教委・京都府教委など推せん
- 申し込み: GEN 事務所まで

グリーンアースダイヤルにご協力ください

KDD グリーンアースダイヤルの協力金が、97年2月から7月までの半年で188,45円になりました。ご利用いただいた方、ありがとうございました。電話料の一定割合がKDDからGENに協力金として支払われるシステムで、手数料など利用者の負担はありません。周囲の方にもおすすめください。

年賀状に 絵はがき『中国・黄土高原の四季』を
 世間は年の瀬にむかって動き出しましたが、年賀状のご用意はお済みですか。まだの方は、ぜひ橋本紘二さん撮影の絵はがき『中国黄土高原の四季』をご利用ください。春、夏の2種類があり、それぞれ1セット8枚で700円(送料別)です。お申し込みは電話・FAX・E-mailでGEN事務所まで。

ナショナルトラスト『チコロナイ』 第2期計画現状報告と延長のお知らせ

1997年12月10日から2年計画で始まった第2期計画も、あと1か月になりました。10月末までで、第1期計画からの繰越金も入れて合計3,764,886円になりました。寄付された方は第1期も入れて398人です。

しかし、第2期の募金目標は700万円でした。目標額に達しないことと、400万円たらずで買い取りできる適当な山林がないため、第2期計画をもう1年延長することに決定しました。

この目標を達成するためにも、チコ

ロナイの輪をますます広めていくためにも、多くの方々の積極的な参加を呼びかけます。今回はリーフレットと郵便振替用紙を同封しました。とくに第1期でチコロナイの輪に加わられた方で、第2期がまだの方は金額はわずかもけっこうですから、ぜひ続けてご協力をお願いいたします。GEN会員でチコロナイにまだ参加されていない方、新たに加わる方ももちろん大歓迎です。よろしくお祈りします。

【連絡先】

緑の地球ネットワーク事務所

武田繁典 〒546 大阪市東住吉区今川

6-2-6 TEL./FAX. 06-704-7720

貝澤耕一 〒055-01 北海道沙流郡平

取町二風谷31-3 TEL. 01457-2-2089

FAX. 01457-2-3991

郵便振替 00900-2-5202チコロナイ

チコロナイ第1期に 寄付された方へ

チコロナイ開始時に寄付をいただいたままの方への通信の送付は今回が最後になります。できればあらためてのご協力をお願いするとともに、学習会アイヌ語講座、ツアーやキャンプへの参加もお待ちしています。

ミニニュース



●10月30日夜、大津市生涯学習センターで、北海道ウタリ協会主催の催し「アイヌ民族の理解を求めて」がありました。北海道ウタリ協会理事長笹村二郎氏の講演の後、平取アイヌ文化保存会によるアイヌ古式舞踊が披露されました。貝澤さんご夫妻をはじめ二風谷の方々に来られ、この夏の二風谷ツ

アー参加者達と交歓しました。

●吹田市国際交流協会などの主催で、文化交流を考えるー1「自然と共生するアイヌの人々」ーアイヌの文化を学ぶーという講演会が開かれました。講師は貝澤耕一さんで、70人余りの会場が満員になりました。参加者から質問や意見もでて、充実した講演会でした。

終了後、30分ばかりの交流会、夕食



をかねた歓迎交流会、さらに希望者10数人で貝澤さんが懇意にしている関西琉球舞踊研究所の仲村さん宅へおしかけて手作りの珍しい沖縄料理を御馳走になり、おそくまでもりあがりました。本当にありがとうございました。

●10月25日、26日と三重県で開かれた「日本ナショナルトラスト全国大会」に、武田と松山さんが参加しました。1日目は名張の赤目温泉の近くで、赤目のナショナルトラスト地での自然観察会に参加、2日目は津市で、分科会と全体会に参加、全体会では「1年間の活動報告」で、チコロナイのことが紹介されました。また、展示会場では、チコロナイのパネル4枚の展示とリーフレットの配布をしました。(武田)

チコロナイアイヌ語講座

～いやでもわかるアイヌ語～

第3期第4回

- 日時：11月22日(土) 14時～16時
- 場所：GEN事務所
- 資料代：第3期(6回)分で2,000円
- 問合せ：平石清隆 (tel. 0745-23-5627)
- ★第3期から『エクスプレス・アイヌ語』(中川裕、中本ムツ子著・白水社)をテキストに使っています。

★1回だけの飛び入りも大歓迎です。(400円)

第28回

チコロナイ学習会

10月の学習会は、貝澤さんの講演会に参加するかたちで行いました。11月はまたいつものように緑の地球ネットワーク事務所で行います。

- 日時：11月22日(土) 16時～18時
- 場所：GEN事務所

●内容：「中国、新疆の錫伯(しば)族およびその言語について」

京大で研究し、学習会にも参加している中国人、承志さんのお話です。

●参加費：100円+カンパ

●問合せ：越智誠一 (tel. 0720-34-4354)

★初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。

★アイヌ語講座・チコロナイ学習会とも、12月はお休みです。また来年、よろしくお祈りします。



GEN 関東ランチセミナー

- 12月20日(土)15時~18時
半田隆志「COP3を振り返る」
- 場所：立教大学池袋キャンパス5号館1階・第1会議室
- ★終了後、忘年会を予定しています。高見事務局長も参加。詳しくは上田信 (TEL/FAX.03-3838-1695) まで。

地球フォーラム in Osaka II COP3 を成功させよう!

- 日時：11月22日(土)13時開場、13時30分~16時
- 場所：大阪市立中央区民センター
- 参加費：前売1,000円、当日1,300円
- シンポジウム『ガイアの声が聞こえますか』『今私たちにできること』
- コンサート『水生木』大地母神
- 申込み：MANDALA ART (TEL. 06-539-

8929) 大阪ボランティア協会気体COP3
大阪アクション実行委員会 (FAX. 06-358-2892)

環境にやさしい商品展

- 日時：12月27日(土)まで
- 場所：兵庫県立神戸生活科学センター (神戸クリスタルタワー5F)
- 問合せ：生活情報プラザ (TEL. 078-360-8540)
- 資源やエネルギーの消費量が少ない、過剰包装でない、などの視点で選ばれた家庭用品、事務用品などを紹介。

奄美の黒糖焼酎はいかが

あっさりとお飲みやすいお酒です。

- “氣”25% 720ml 1,152円
- “氣”20% 720ml 1,105円
- ※その他いろいろあります。お問い合わせはGEN事務所か竹中さんまで。
- ★消費税・送料別。
- ★申込み：竹中隆 (〒547 大阪市平野区 瓜破1-2-15-40 TEL/FAX.06-709-9004)
- ★売り上げの一部がGENへの寄付になります。

ユズ・ポンカンのご案内

高知の田中さんから久しぶりのご案内です。土佐の晩秋の香りをどうぞ。

- ユズ(無農薬・有機〔鶏糞主〕栽培)
 - ・2kg箱詰(17~18個入り) 1,600円
- 柚子酢(無農薬)
 - ・4合瓶2本箱詰(720ml×2) 3,400円
 - ・1升瓶1本(1.8l) 3,700円
- 出荷：10月25日~12月5日
- ポンカン(低農薬・有機栽培)

A	3L/2L	5kg	化粧箱	4,000円
B	〃	〃	普通箱	3,700円
C	〃	3kg	化粧箱	2,600円
D	L	5kg	〃	3,500円
E	〃	〃	普通箱	3,200円
- 出荷：12月ごろ~来年2月
- ★送料：630円(関西方面)。その他の地域はお問い合わせください。
- ★お申し込みは田中隆一さんまで。
〒781-84 高知県安芸郡東洋町甲浦
TEL/FAX.08872-9-2500
- ★売り上げの一部がGENへの寄付になりますので、ご注文の際は「GENの紹介」と一言添えてください。